

田辺市総合計画審議会
第1回分科会（SDGs）
会議録

田辺市総合計画審議会第1回分科会（SDGs）会議録

日 時	令和3年7月28日（水）午後1時15分～午後4時
場 所	市役所本庁3階 第一会議室
出席委員	6名
欠席委員	2名
傍聴者	報道1名
会議事項	1. 開 会 2. 自己紹介 3. 議 事 (1) 田辺らしいSDGsの進め方について (2) どのようにSDGsを後期基本計画に反映するか 4. その他 5. 閉 会

1. 開会

分科会資料及び会議の進め方について確認。

2. 自己紹介

各委員による自己紹介の後、関座長から「地方創生とSDGs」について、事例紹介も交えて説明。

3. 議事

(1) 田辺らしいSDGsの進め方について

(関座長)

まず、SDGsらしい進め方というのはありません。この地域で一番解決したい課題がどこにあって優先順位をどうかという議論をいただき、解決手法にSDGs的な戦略、思想を当てはめていただければと思います。自由な発想で議論させていただき、その中で連携したほうがよいという課題がでてくると思いますので、課題の優先順位を明確化していきたいと思います。

2つ目は基本計画の骨格はかなり書き込んでいますが、SDGs的に言うと、連携して解決できるものはないかということを見つけることです。ただ、政策的に実施するとなると、自治体のアドバイスもいただきながら実施しなければならないので、その手法を立体化させることを後半でできればと思います。

ご自身の関心事や、基本計画の中で大事だと思うところがあればそのことについてもご発言いただきたいと思います。

(A委員)

環境問題、ごみ問題に関心があります。田辺市では10数億円の費用がかかっています。プラ

ストック新法が来年の春から施行されるということもあります。いろいろな活動をするには平和と人権が大切と思っており、田辺市で男女共同参画のジェンダー問題も気になっています。SDGsのジェンダーを実現しようというのが、8.4%と低く、割合で言えば、70代の方が低くなっています。戦前教育で言えば分けることが当たり前だったのかもしれませんが、10～30代の方は高い割合になっています。兵庫県豊岡市長はジェンダー課題を最優先にして取り組むという話もあります。田辺市の評議員の割合も女性が3割というのが目標ですが、ほぼゼロの場合もあり、市議も3名しか女性がいません。LGBTの問題など、人権はどんなことがあっても守ってあげてほしいという思いがありますが、田辺市は遅れていると思っています。耕作放棄地も目立っていて、スマート農業もありますが、行政に頼る部分があり、自分たちで主体的に動く、小規模多機能自治という考えもあり、気になることがいっぱいあります。

(B委員)

教育、子育てに興味があります。田辺市の給食費は、準要保護の方たちは払わなくてもよくなりましたが、そうではなく全員が学校で給食を食べられるようにしたいと思っています。

(関座長)

子育て支援で何か出すのであれば、学校給食をするということはひとつの考え方としてありだと思います。

(B委員)

中学校までの医療費がいらなくなったことは、すごくいいことだと思っています、もっと子育てがしやすい環境を作っていければと思います。質の高い教育は9.4%ですが、収入がないと、大学へ行くには市外へ行かなくてははいけないので、生活費や住居費、そのほかにも送るものがあり、難しい部分があると感じています。高校に行ける実力はあるが、様々な事情で行かずに働かれている方々もいます。

(関委員)

進学したい方への支援はもう少し手厚いほうがいいですね。コロナ禍のため大学がオンラインで授業をするところもあり、それなら住居費は必要ありませんが、リアルに友達ができないという寂しさもあると思います。奨学金の問題は、地域で持っているお金を次の世代の教育に回せないかということも一つ考えてはいかがでしょうか。

(B委員)

田辺市は脇村、小山などがあるが、額は少ないです。

(関座長)

地域でファンドを作るとか、地域でお金を出して変えていく等、意識を変えることをSDGsでは求められています。収入は無くても所得としてのストックがあると思うので、それらを

どうするかという考え方は重要だと思います。給食の問題は政策の中で優先順位をどこに置くかという自治体の判断によると思います。

(B委員)

医療費が無料になりすごく助かっています。

(関座長)

一方で、携帯電話との比較で、利用料が1万円だったら、そのうちの3千円削ってでも給食費を出してほしい。それが親と思うのですが。

(B委員)

私たちの世代の親の在り方は、若い方々とは少し違うと思います。

(関座長)

ただ、自己責任ということをもう少し出していかないと、出せないから公が出して当たり前という風潮では難しいと思います。個々に独立してもらい、その中で優先順位がどこかということですが、その教育ができていないのだと思います。子育て世代に対する一定程度の教育が必要な時代ではないかと思っています。昔は、経験値や親を見てというのがありましたが、今はしっかりとマニュアル化して、教えていくという手法が必要かもしれません。

(B委員)

7ヶ月健診の子供に絵本を渡すことになっているので、親に何回も連絡し、約束を取り付けましたが、民生委員さんが訪問したら留守だったということがありました。民生委員の方も仕事を中断して訪問していただいており、つらかったという相談を受けました。約束を守ることができない状態なので、学校教育だけでなく、そういったところの教育も必要かと思っています。

(関座長)

社会ができること、自分ができることを整理して、ルールの明確化を示す必要があると思います。C委員はいかがですか。

(C委員)

今朝から、自家水道の補修に行っていました。手入れしていない山が崩れて、水源に入ってしまったということだったので、自宅から目の前を見ると耕作放棄地に太陽光発電が並んでいます。大切にしないといけないものは自分の中に色々あります。行政からいつもペットボトルのお茶を出していただきますが、年間にするとすごい量が出ると思います。本当に必要なのか、必要であれば自分で取ればいいではと思っています。一説では紙は焼いてしましますが、ペットボトルは再生できるということもあります。

私は人権部門から出ているので言いますが、国も県も共同参画条例を作っています。田辺市は、そのような縛りがあるものを作らず、プランという形でしかおさえない。拘束力もなく、こんな風でできればいいねで終わってしまっています。太陽光の再生エネルギーは大事で、誰も言いませんが節電も大事です。森林の大切さも実際に現場を見に行かない限り分からないと思います。釣りに来た人が平気でペットボトルを捨てていて、マイクロプラスチックの問題が出ています。現場を見ていると繋がっているのが分かります。共同参画についても条例ができないと、女性のパート労働など、そういうものに依存しているわけです。人権は基本であり、人がいるから社会があると考えています。そういう意味で、いろいろ考えると自分の中でも矛盾を感じています。昔、原発に反対したから電気は大切に、家の中にプラスチックを持ちこまないようにしていますが、それだと経済に逆行しています。山は大切にしたいが経済的にうまく循環しないから手入れがされない、耕作放棄地に太陽光を作っているのは9割が不在地主です。全て経済につながっていて、太陽光パネルを見ると、お金に見えてしまって悲しい気持ちになります。矛盾を感じる方々が多いほど、良い方向に行くと思っています。「パートナーシップで目標達成しよう」というのは、世界レベルですが、田辺市全域で、合併以前のそれぞれの旧市町村がパートナーシップを持って、例えば、旧田辺の人が龍神村でどのような森づくりをやっているのか知って、パートナーシップを基本に捉えて進めていければいいかなと思います。

(関座長)

構造様式を変えることがSDGsでは重要なので、人権を守る、節電する、どうすれば守れるようになるかを考えるのがこの分科会だと思いますので、少し頭に入れて、こういう政策はどうかということの話ができればと思います。

(D委員)

業界としては、ウッドショックと言われて、追い風が少し吹いていますが、一時的なことかもしれません。業として成り立っているか疑問を感じることもあります。林野庁が進めている政策が基本で、県は右へ倣え、市も応援してくれていますが、もう少し独自性を持たせないといけないと考えています。国に対して、言いたいことは言っているつもりですが、全国の政策とこちらの政策は違うところがあり、同じことをやってしまうと、規模の大きなところに絶対に負けてしまいます。木の国ともいわれますが、九州と比べると10分の1程度の生産量しかない中で、県内でも特に田辺市は、龍神、中辺路、大塔、本宮、どこも山が中心で、旧田辺市内は新庄を中心に多くの製材所があり、産業構造が一定できていると思うので、もっと独自色を出せるようなことができればと思っています。

もう1つ言えば、住み続けられるまちづくりの中で、どんどん人が出ていきます。祭など、しんどいと言いつつも、重要なものがここ2年ほどできていなくて、次にやろうとしたときに、本当にできるのかという懸念があります。どこまで行政に頼るのがいいのか分かりませんが、限界集落のような地域をどうにかできないかという歯がゆい思いを持っています。林業を盛んにすることで少しでも地域が成り立つようにできればいいのですが、一番の根本は、地域

地域で成り立っていくようにできればと思っています。

(関座長)

祭はコミュニティの力なので、コロナでできないというのは大きいですね。Eさんは環境省のお立場からどうですか。

(E委員)

まず、政策レベルの話合いでは環境省の立場から触れることはできないのでご理解いただければと思っています。自然環境というのが環境省の所掌エリアとなっていて、吉野熊野国立公園というものに関わっているので、その観点から言えば、田辺市はかなり市民参画をされていると思います。他自治体、地域では地域の自然環境を守ろうという動きはそれほど浸透していません。田辺市に浸透している最たる例が天神崎の自然を大切にする会とか、地元を大切にする意識や思いで、ナショナルトラスト運動をしているのがすごく強みだと思っています、モデルケースとして田辺市の取組を捉えることができると思います。

アンケート結果について、住み続けられるまちづくりという名称に引っ張られている可能性があります。多くの地域で高い結果が出ているのは、関心があるということだと思います。最近、山間部にクマがでましたが、人と野生動物の距離感が狂ってしまって、怖い、住み続けられないと思う人が出てきてしまうので、重点的に考えていく必要があるのかなと考えています。また、アンケート結果を個々に見ていくと、旧田辺、旧町村単位で認識の差があり、難しいところはあると思いますが、同じ市内なので、学校教育として相互に交流することによって差異が埋められるものと思っています。

個人的には、価値観の普及というのが浸透していないと思っています。教育がとても大事だと思っています、18歳未満への教育はもちろん、大人世代、子育て世代への教育も必要だと思います。自身の生活で精一杯という実情もあると思いますが、同じ社会で共生していく中で、一定の共通認識が必要で、そこからずれてしまうと、それが社会からの分断にもつながっていくと思いますので、大人世代への教育、そういった場の提供、人材の交流が必要なのかなと思います。

(関座長)

田辺市には、ナショナルトラスト運動や熊野古道があつて、それらは地域の方々の長年の努力で存続されてきたもので、地域の宝、誇りだということですね。

(E委員)

地域の誇りだと思っています。環境省は保護と思われがちですが、保護と利用が柱にあります。道があつても利用者がいなければ、いくら維持管理しても廃れてしまって意味がないので、吉野熊野国立公園に人を呼びましょうということや、ある程度の開発は仕方ないと考えています。これを柱に全体につなげていく動き、SDGsは一つの歯車が回ると全体の歯車が回るという話を関先生からいただいたように、そういったことを突破口にして、全体を回していくという

のも一つの考えかと思いました。

(関座長)

今いただいたお話は、これからの議論にちょうどいい内容だったかと思います。では、F委員お願いします。

(F委員)

労働者福祉協議会ということで労働組合の集合体です。まず、田辺市で言うと、仕事が少ないです。昨年11月30日に会社が倒産し、失業者になりました。ハローワークにいても、今まであったのは、梅とり、介護、福祉、あとは35歳や40歳までといった年齢制限のある仕事で、私は、今も仕事に就いていません。仕事のことは、人口減少にも関わってくるのかと思います。上富田は企業誘致をして人を増やしていますが、田辺市では働いても暮らしていけない状況です。今働くと、手取りで10万円くらいしかないの、生活的にも社会的にも子供を養っていける状態ではないと思っています。ちゃんと働けば、普通に生活できる企業、仕事を作っていく必要があると思っています。長距離トラックの運転手だと、月に200~300時間の残業をしますが、それで残業代も含めてやっと生活できる状況です。このような過酷なところではなく、ちゃんと8時間働いたら、子供も養って暮らすことが出来る働く場所を作ることが重要であるのかなと思います。

また、6月まで東京にいていたのですが、自転車がが多く歩道が動かないくらいでした。田辺はみんな車なので、このようなところも問題意識を持たないといけないのではと思いました。

先日、龍神に移住された方と話す機会がありましたが、元々の住民の方との関係が上手くいかないことが多々あるようで、孤立してしまうことも多いみたいなので、そういうところのまとまりをつくっていくことも田辺市として大切なのではないかと思います。

経済でいうと、農業をされている方は国民年金なので二人いても月に6~7万でしか生活できなくて、農機具も古いものを修理しながら使っているので、壊れてしまうと、機械を更新できなくて耕作放棄をせざるを得ないわけですが、それで済むかという、草が多く生えてきて周りからとても文句を言われてしまいます。その草を刈るのに人に依頼するとお金が必要で、シルバー人材センターに依頼しようにも、9月以降にならないと空きがなくてやってもらえなくて困っています。

中辺路には診療所が3つあって、1つが無くなるようとしています。存続できるように動いていましたが、他の地域に比べると多いくらいだということも言われています。減らしていくのではなくて、全体を増やしていくということも大切ではないかと思います。

(関座長)

仕事がないということが一番地域の活性化を妨げている、また、若者が残れない状況ということでもありますよね。人口減少の速度を抑えきれないという形になってしまいます。SDGsの中で重要なのはディベロップメントという話をしたのがまさにここにありまして、経済がしっかりと動かない限り社会も制度も持ちこたえられません。

11の住み続けられるまちづくりという大きい題材があるのですが、169のターゲットをすることによって、住み続けられるまちができるだろうという小さな目標値を作っている。概念ではなく、事業・戦略を作るとするのがSDGsで、全世界が対象です。日本においては、基本的に11.1はできているかと思います。日本にスラム街はなく、住まいもあって、公共サービスを受けられない方もそんなにいらっしやらないと思います。

11.2も日本ではけっこうできていると思います。電車が1時間待っても来ないなんてことはなくて、時間どおり発着していると思います。本数があるかないかは別として、いつくるか分からないという状況ではないと思います。11.4もすごく重要で、国立公園等を守るということも持続可能なまちづくりの大きな視点だということが分かると思います。11.5は、水関連の災害があった場合ということで、南海トラフ大震災が発生した場合のため、復興計画を作成されるということで結構できているという形です。11.7では、災害時に使える広場空間、公共スペースをしっかりと提供しましょうということを書いています。11.bの仙台防災枠組みは東日本大震災の時に作ったのですが、災害があるということ为前提としていろいろな対策を立てましょうということを書いています。皆さんが思っている以上に、国連が示したSDGsのターゲットは具体的に書かれています。

これを読みながら、今回のテーマ「田辺らしいSDGsの進め方」について考えていきたいと思います。基本計画の下案がありますので、読んでいただきながら、169の視点も踏まえていただきながら、まずは意見を集約させていただくというような進め方で、田辺らしいSDGsを見つけていくという手法をとっていききたいと思います。アンケートでは、169のターゲットに触れていないんですが、細かいところを言い出すと、具体的な事業のイメージが浮かんでくると思います。事業の提案というものがSDGsには重要になってきますので、こういう事業があればうまくいくといったような事業についても提案いただければと思います。

(2) どのようにSDGsを後期基本計画に反映するか

(関座長)

では、2つ目のテーマに移らせていただきますが、田辺らしいSDGsの進め方については169の具体的な小さなターゲットまで配布していただいたので、これを見ていただき、もう少し強化したほうがいいというような形でもいいので、自治体へ提案をいただきたいと思います。キーワードでもいいです。

2番目はテクニックの問題なのですが、2パターンありまして、総合計画の政策体系が既にできているので、それに当てはめるというもので、章の上にSDGsのロゴを入れ、関連するSDGsに配慮しながら事業を進めるというやり方です。もう一つは、市として考えるSDGsの方向性を重点施策として明記するというもので、経済、社会、環境の3つをしっかりと連動させ、田辺市として本格的にSDGsに取り組むという方向性を出して、重点施策のひとつに盛り込むというやり方です。

私としては、重点施策や項目として1つ立てていただくのがいいかと思います。ちなみに、計画期間的には2030年までは大丈夫でしょうか。

(事務局)

今回の計画はR4年度～R8年度までで、2026年度までの計画です。2030年は、次の総合計画の期間となります。

(関座長)

SDGsでは、先に将来像を見せて、一定の期間の中で、何年に何をしますときちんと宣言をするバックキャスト型が重要とされています。あと、17のゴールを全部盛り込むのか、17の中でも市として大切にしたいところに重点を置くのかも検討いただきたいところです。11の持続可能なまちづくりは、全体としてはすごく素敵ですが、実際のところ言うと、熊野古道を中心としたもののほか、環境、ジェンダー、教育、人権に関することは皆さんのご意見が非常に強かったと思います。人権を重点にしたSDGs未来都市は少なく、環境やエネルギーに重点を置いた内容が多く、森林やバイオマス関連も一定あったかと思います。

(C委員)

アンケート結果を見ると、SDGs自体を知らないというパーセントが思ったより低く、先に3つ選んでしまってこの項目まで入らなかったという感じがします。具体的な施策より、SDGsとはこのようなものというのを、まず知っていただくことが大事だと思っています。まだ、LGBTのほうを知っている人が多いと思います。

(A委員)

今日的課題云々と前の計画にあって、SDGsは今日的課題だと思いますので、別仕立てであっていいかと思います。

(関座長)

IOTは別の分科会をしていますか。

(事務局)

IOTは、今回はしていません。

(関座長)

地方創生では、SDGsとIOTの2本柱となっていますので、この両方を重点施策で書いていただいてもいいかとは思いますが。コロナ禍で東京も休校が続きましたので、オンライン授業を必然的にせざるを得ない状況で、今、全国的にGIGAスクールも進められていると思います。大きなところ言えば、行政の電子化も課題だと思います。SDGsを進めるにはIOTを進めないといけない部分もあると思いますので、ご検討いただければと思います。

この議事の2つ目の、どのようにSDGsを後期基本計画に反映するかについては、各章ごとにSDGsのKPIを記入いただくとともに、重点施策の中で、紹介も兼ねた概念の話と田辺市らしい方向性を記入いただくということでしょうかと思います。できれば、17のゴール全て

を平均して書くよりは、田辺市として重点的にこの部分をこうするという意見があれば本日お伺いしたいですが、いかがですか。

(E委員)

国立公園という観点で言えば、14のほうがよいと思います。本宮まで行けば内陸部分もありますが、海域公園地区が大きく、天神崎もそうですし、日本固有種も海域にあります。あと、14のほうが達成のしやすさもあると思います。旧田辺市のエリアですが、アンケートから見ると、子供たちはかなり浸透していることが分かります。これは、ある意味成功していると思っていて、天神崎の清掃活動に高校生も参加しているし、これを掲げておくことによって、見やすい指標になるのではないかと実務的な側面もあると考えています。

(関座長)

12番というのは消費者活動と企業活動をセットで動かしていくので、消費者の意識は高いと思うのですが、企業側の意識がどうかと言うところだと思います。つくる責任、使う責任の部分で、田辺市としてはこういう方向に宣言したいとかあればいいですね。あとは、1番の貧困と4番の教育をセットにして、人権を前に押し出してというところでしょうか。

17を全部出すのではなく、どこを掲げるかですね。SDGs未来都市でもそうですが、たとえば、眼鏡で有名な鯖江市では男女平等を全面に掲げていて、つくば市も同様です。林業で言えば真庭市は林業中心に全体の人材育成を、墨田区は産業系で、ものづくりから経済育成を企業と組んでいますし、石巻市は復興地ですが、単独高齢者世帯が多いので、中心部までの移動に豊田通商と連携してEV車を活用するというIT型の提案をされています。

(事務局)

冒頭に申し上げたように、重点プロジェクトはあくまで施策横断型なので、ここに入れようとする複数分野、特に、人、活力、希望といった分野に横断的に入らなければここには入れづらいと考えています。今回アイデアが出なければ、計画推進に1項目作って、SDGsの認知と、田辺らしいSDGsの在り方を考えて進めていくことを載せる形にさせていただきたいと思います。というのも、審議スケジュールの都合上、目標の絞り込みまで行うのは難しい中で、今回、横断的な提案がなければ、重点プロジェクトとして審議会に出すことは難しいと考えています。

C委員がおっしゃったように、認知度がどれだけ高いかということですが、実はアンケートにはSDGsのパンフレットを入れて送付しています。それを見た上で、皆さん回答していると思いますので、もし、パンフレットを入れていなければ、結果は違ったと思います。メディアでもSDGsが出ていますが、みんな知っているかという、そうでもないと思いますし、それを他人に説明できるかという、難しい話だと思います。共通項として、まずはみんなが知るところから始める必要があると考えています。難しいことをやろうというわけではなく、身近な毎日の行動の中にSDGsに繋がることがあるというほうが、市民の皆さんはとっつきやすいのではないかと考えています。何に重点を置くのかということは、今日お聞きするだけ

でも皆さんそれぞれ違いますし、35人の全体会となると、もっと違うと思いますので、残りのスケジュールで合意するのは難しいかと考えています。

(関座長)

重点プロジェクトは概念的に書いていることが非常に伝わってきます。地方創生SDGsは、SDGsとしてやるのではなくて、元々地方創生の4つの課題を解決するための視点として使うという考え方ですので、地方創生について書く項目があれば、横断的な新しい視点ということで入れていただいて書いて、最後にSDGsの普及みたいなものを入れていただくという方法もあります。重点プロジェクトよりは、地方創生のところで書いたほうがすっきりすると思います。

(事務局)

第2次田辺市総合計画では、序論に総合戦略との関係性を簡単に書いています。前提条件として、Society5.0とSDGsを具体的に書きこむ対応は可能だと思います。基本計画に位置付けるのであれば、今のところは重点プロジェクトではなく、計画推進の中に地方創生の新しい時代の流れを力にするということで2項目書いているので、それを包括的に進めるということで、計画推進の最後に1項目起こしてIoTの推進や地方創生SDGs、それらをちゃんと認知していただくといった落とし込みは可能かなと思いますが、田辺市の総合計画はどちらかというと具体的ではないタイプです。

全面的に見直すとすれば、第3次総合計画の策定のタイミングかと思います。今回はあくまでマイナーチェンジということを踏まえると、今回の議論を聞く中で言えば、序論を少し加筆するのと、第7条の計画推進のところを1項目追加させていただくというのが落としどころではないでしょうか。審議会でも時間の関係がありますし、具体的な落とし込みは、総合計画審議会とは別に作業が必要となります。

(関座長)

そうですね。

(事務局)

そういう形でよければ、次回の審議会にご提案させていただけるかと思います。

(E委員)

それが一番の落としどころだと思います。そもそも、市の意向として、SDGsをどの程度盛り込みたいのかが気になっていました。市民アンケートにおいてもSDGsに関する設問があつて結果も出されていますが、その中で上位にあるゴールを後期基本計画に必ずしも含める必要はないということでしょうか。アンケートに回答した方がどういう意図でそのゴールを選択したのかは分かりませんが、重点プロジェクトに含めようと思えばできるのかなと思っていて、例えば、11番の住み続けられるまちづくりであれば、レジリエンスの話なので、強

靴化プロジェクトの中で、何かしら対応できる部分もあるのかと思います。マンパワーと審議会スケジュールとのバランスの問題もあると思います。今回、市長的にもSDGsは大事だということでしょうか。

(事務局)

どの分野というのはありませんが、SDGsというキーワードは、今回の計画の中では明記したいというのがあります。市長の公約にもSDGsの推進がありましたので、進めていくということです。ただ、本日のようにどこに重きを置くのかということと、何か1つを達成するためのつながりを考えなければならないというところがあり、どのゴールを持ってくると田辺らしい経済、社会、環境の好循環の絵になるのかということの整理が必要だと考えています。

(D委員)

そのことについて、我々も言うことはできますが、分科会でまとめたものが計画に載ると言うよりも、それこそトップダウンですることではないかと思います。意見はもちろん言いますが、どれを重点的に進めていくかということは、選挙で選ばれた方が決めるようなことで、みんなで意見を言い合って決めると総花的にしかならないと思います。

(関座長)

方向性だけ決めて、内容については行政で検討していただきますが、審議会に上げるにあたって、方向性だけ決まったということで、配慮いただければと思います。実際、議論も多分野にわたって、これが重要だという意見は出なかったので、方向性についてまとめたということでご理解いただきたいと思います。具体的な事業としてももう少し強化してほしいといったご意見は聞いていただけることになっていますので、先ほどの給食費の無償化というようなものは大胆な提案だと思います。

(A委員)

意見が出る、出ないに関わらず、何日までに言えばいいですか。

(事務局)

ご意見があれば、来週末までにいただけますようお願いいたします。

4. その他

(A委員)

田辺市は高齢化も33%あり、要介護、要支援が全国、県平均より高く、小規模多機能自治の川北先生曰く1億円余分に使っているという話でした。課題は多いですね。

(関座長)

都会のほうが歩くので、健康で寿命も長いと聞きます。

(事務局)

地方は車社会で、ドア to ドアの文化なので、そうだと思います。田辺市は、特定健診の受診率が低いことも課題の一つで、そのことが解消できれば、病気の重症化を防いで、健康寿命の延伸、医療費の削減にもつながります。

5. 閉会